

最後に一新種を記載する。

Fraxinus (Fraxinuster) tenoderaecarpa KORDZ. n. sp.

Arbor ramis cinereis vel badio-cinereis glabris laevibus, vetustis atratis lenticellis albidis. Gemmae parvae globosae minute papilloso-puberulae. Folia imparipinnata 20-30 cm. longa, modice petiolata, 2-3-juga rarius unijuga; rachide supra sulcata minute puberulaque mox glabriuscula, sed ad insertionem foliolorum semper longius pubescentia instructa; foliolis brevissime petiolulatis vel fere sessilibus lanceolatis vel oblongo-lanceolatis acuminatis basi obtusis, inequaliter sinuato-serratis cum serraturis apice falcato-incurvis argutisque, membranaceis, supra opacis glabris, subtus pallide viridibus secus costas medias versus basin copiose lanuginosis. Samarae anguste spathulatae apice obtusae circiter 3 cm. longae infra medium abrupte angustatae.

Nom. Jap. *Sohma-shiwoji*

Hab. Nippon: prov. Iwaki, mt. Akaidake (lg. Z. TASHIRO, 30, Julio 1933.)

シヨウジヨウバカマ屬に就て

小 泉 源 一

従来シヨウジヨウバカマ屬は A. GRAY の設立した *Heloniopsis* A. GRAY がそれであると一般に信じられてゐた。

Heloniopsis は1859年 A. GRAY氏が Memoirs of American Academy Arts and Science, new series, VI に發表した Diagnostic Characters of New Species of Phanerogamous Plants, collected in Japan by C. WRIGHT, Botanist of the U. S., North Pacific Exploring Expedition. と云ふ論文の四一六頁に發表したものである。

A. GRAY氏の *Heloniopsis* 屬の記事をよく読んで見ると其種子の記載はシヨウジヨウバカマとしては、どうも受取り難いものであるが、本植物の採收された宗谷海峽には、かゝる珍奇のシヨウジヨウバカマ一種が産するのかとも考へて居た、而本文には勿論其圖版などは伴てゐない。

然るに予は、昭和二年三月十二日 Harvard 大學の GRAY Herbarium に於て氏の *Heloniopsis* の type を検査するの機會を得た、就て見ると植物體は宗谷海峽地方に産する花數の極く少い一種のシヨウジヨウバカマで、既に蒴は裂開して一の種子も残て

May, 1934.

43

居ないものであつたが、其標品のわきに本植物の種子として、入れてある一包がはつてある。

即ち北太平洋探險植物隊が宗谷海峡に於てシヨウジョウバカマ一種を採收せし時に本植物の種子と思つて其植物の下に落ちてゐるのを、かき集めて來たものであるは容易に首肯される。

此種子を見ると A. GRAY氏が前記四一六頁の記事と大體よく符合する、然し此種子はシヨウジョウバカマ屬の種子ではない、よく見ると此種子は *Luzula pallescens* BESSER) 近似品のものである。

それで A. GRAY氏が *Helonias* から *Helomiopsis* を區別したのは、氏の記事にも見る如く主として其種子の形態に主をなしてあるのを見ても、氏の *Helomiopsis* 屬は設立を許されない、シヨウジョウバカマ屬の種子ならば外部形態に於ては殆ど *Helonias* の種子と區別はないのである。

故に予は1930年、予の *Florae Symbolae Orientali-Asiaticae* 九四頁に於てシヨウジョウバカマ屬の學屬名としては、1867年 F. A. G. W. MIQUEL氏が *Verslagen en Mededeelingen der Koninklijke Akademie van Wetenschappen, Afdeling Natuurkunde, Tweede Reeks, Tweede Deel*, 八八頁に發表した *Sugerokia* MIQ. を採用すべきものなる事を書いてをいた。

羊 齒 植 物 雜 錄 3.

田 川 基 二

(14) *Dryopteris viridescens* O. KUNTZE

1867年に BAKER は *Nephrodium viridescens* BAKER といふ新種を記載した⁽¹⁾、原記載には唯 Japan, *Oldham*, 89, 377 と書いてあるだけで、OLDHAM が日本の何處で採集したものかは知る由もないが、OLDHAM 採集の他の植物から推察すると長崎あたりと考へられる。その後本種の記事は諸書にでてゐるが、彼の有名な FRANCHET, SAVATIER 合著の日本植物目録の本種の條下に *Japonice.-Kojane warabi* (Keiske) と記されて以來⁽²⁾、日本の學者はコガネワラビ即ちリヤウメンシダが本種であると考へて近年までその學名に *Dryopteris virescens* (BAKER) O. KUNTZE を用つてをつた。けれどもこれは大きな誤であつて *Nephrodium viridescens* BAKER はどうしても今日ナガバノイタチシダと呼んでゐるものでなくてはならぬ。特に本州、四國、九州のナガバノイタチシダは BAKER の種類によく一致するものである。ナガバノイタチシ